

sapporo
education and culture hall
news

raku

Tokyo Metropolitan Theatre

Чайка

КАМОМЕ

11.23 Wed.



[特集]

原作／アントン・チェーホフ『かもめ』

これは悲劇？ 喜劇？
成就しない大人の恋の行方。

これは悲劇？ 喜劇？ 成就しない大人の恋の行方。

1896年秋、サンクトペテ

ルブルグ。それまで医師・小説家として活動していたチェーホフが本格的に戯曲として取り組んだ『かもめ』の初演は、あまり褒められた結果ではなかった、と言われています。それまでの演劇の常識にとらわれずに上演された『かもめ』は、簡単には人々に受け入れられませんでした。しかし、その2年後に新進気鋭のモスクワ芸術座でのスタニスラフスキーの演出で『かもめ』は大喝采を浴び、ロシア演劇界における新しい演劇の波を作りだします。さらに、数ある戯曲の中で、時間を越え、国を越えて上演され続けるこの作品には、不思議な魅力があると云わざるを得

ないでしょう。

今も様々な演劇論で語られるこの作品ですが、チェーホフ自身は『かもめ』の構想をこのように書いています。「喜劇、女性の役が三つ、男性の役が六つ、四幕、風景(湖の眺め)、文学をめぐるたくさんの会話、事件は少なく、五ブードの恋」。ブードとはロシアの重さの単位。つまり「もてあますほどのたくさんの恋」の意味で、文字通り完成した戯曲には、いくつもの大人の恋愛が描かれます。しかし、そこに普通の甘いロマンスが描かれないのがチェーホフという作家の特異性です。芸術家の仕事は「問題の正しい提示」であって、その「解決」ではない、と考えるチェーホフ

は、ボタンを掛け違えたかのように

に想いの通じない相手に恋する人々を、淡々と会話劇で描いていきます。さらに、これもチェーホフの特徴と言われている、不可解なセリフとセリフの「間」が繰り返し登場します。さて、この爽やかとは言い難くスムーズにも進まない恋愛戯曲を、なぜチェーホフは「喜劇」として書きだしたのか。また、戯曲の中に度々登場する「かもめ」とは何を示しているのか。重厚なロシア文学の壁を破ったシンプルなチェーホフの文体とは裏腹に、何層にもからまる複雑な味わいこそが『かもめ』という作品の醍醐味かもしれません。物語の「真実」を、是非その目で確かめてみてください。

「あらすじ」

舞台は湖のほとりにある別荘地。大女優であるアルカージナは恋人の流行作家・トリゴリンを連れて兄・ソーリンの屋敷に滞在していた。しかし、アルカージナの息子・トレブレフは自分がなかなか作家として世に認められないこともあり、トリゴリンを快く思っていない。なんとか母に認められようと、女優志望の恋人・ニーナとともに自作の演劇の上演を試みる。そこに集まったのは管理人のシャムラーエフ、その妻のポリーナ。夫妻の娘

のマーシャは密かにトレブレフに恋心を抱いている。何度もマーシャに求婚するが断られている教師のメドヴェージェンコ。長らくこの屋敷に出入りするドクター・ドールンも参加するが、実は過去にポリーナと愛し合った過去がある。そんなからみあつた人間関係の矢印が、この上演を境に少しずつ方向を変えていく。トリゴリンとの恋に溺れ、田舎を捨てて女優になることを決めるニーナ。2年後のトレブレフとの再会で導かれる結末とは。だれもがだれかに片思いして報われない、市井の人々ドラマ。

[特集] かもめ

原作／アントン・チェーホフ

「かもめ」人物相関図



誰もが恋してむくわれない…普通の人々のドラマを描く チェーホフの傑作「かもめ」に、 気鋭の若手演出家・熊林弘高が豪華演技派キャストと挑む。

tpt公演「おそろべき親たち」、東京芸術劇場Rootsシリーズ第二弾、清水邦夫作「狂人なおもて往生をとぐ」など、上質な作品を送り出してきた気鋭の若手演出家、熊林弘高。この秋、熊林がロシアの劇作家チェーホフの4大戯曲のひとつ「かもめ」に挑みます。

満島ひかり、佐藤オリエ、中嶋朋子、田中圭と熊林に厚い信頼をおく演技派俳優陣、坂口健太郎、渡辺大知のフレッシュな若手俳優陣、小林勝也、渡辺哲、山路和弘、あめくみちこと、実力充実のベテラン勢が一同に会した豪華キャストの競演にご期待ください。



かもめ 札幌公演
2016年11月23日〔水・祝〕 13:00開場／13:30開演 札幌市教育文化会館 大ホール
〔翻訳・上演台本〕 木内宏昌 〔演出〕 熊林弘高
〔出演〕 満島ひかり／田中圭／坂口健太郎／渡辺大知／あめくみちこ／山路和弘／渡辺哲／小林勝也／中嶋朋子／佐藤オリエ
〔企画制作〕 東京芸術劇場
〔チケット取扱〕 教文プレイガイド 011-271-3355
大丸藤井プレイガイド、道新プレイガイド、チケットぴあ、ローソンチケット

Sapporo Opera Festival

第11回 さっぽろオペラ祭2016

10/8(土) ▶ 12/4(日)

毎年恒例のさっぽろオペラ祭が今年も10月8日から12月4日の期間開催されます。本格的なオペラ公演をはじめ、子どもも楽しめるオペラガラコンサートや高齢者施設などへの出張コンサート、オペラの舞台美術を考えるセミナーワークショップも開催いたします。(お問合せ/札幌市教育文化会館 事業課 TEL.011-271-5822)

マスカーニ作曲「カヴァレリア・ルスティカーナ」

プッチーニ作曲「修道女アンジェリカ」 イタリア語原語上演・字幕付き

柴田真郁 指揮/岩田達宗 演出



カヴァレリア・ルスティカーナ

修道女アンジェリカ

12月3日(土)18:00開演 4日(日)14:00開演

全席指定 | S席 10,000円 A席 8,000円 B席 6,000円
C席 4,000円 学生U22席 3,000円

※北海道二期会維持会員10%割引(電話申込みのみ)、教文ホールメイト5%割引(教文プレイガイドのみ)
※乳幼児を伴ってのご入場はご遠慮下さい。※学生U22席は、1994年生まれ以降の方が対象です。(当日要学生証)

大ホール

「嫉妬と代償」そして「絶望と救い」心に迫る2つのイタリア・オペラを貴方に!

シチリアを舞台に燃え上がる男女の愛憎のドラマと、イタリアの女子修道院を舞台にした神秘的な奇跡の物語。胸を打つアリアや迫力ある合唱、そして美しい間奏曲... イタリア・オペラならではの、声とオーケストラの競演に、ご期待下さい!

《カヴァレリア・ルスティカーナ キャスト》サントゥツァ:東 園己、トゥリッドゥ:片寄純也(客演)、ルチア:越野陽子、アルフィオ:今野博之、ローラ:平野則子
《修道女アンジェリカ キャスト》アンジェリカ:佐々木アンリ・千田三千世、公爵夫人:前木成子、修道院長:菅原利美、ジェノヴィエツァ:笹尾雅代、高坂淳恵、他 北海道二期会会員

北海道二期会 TEL.090-6266-5313(専用携帯)
http://www.hokkaido-nikai.com

ママとみんなのきらきら音楽タイム

11月30日(水)
11:00開演
10:30開場

全席自由 500円

※お膝の上でお聴きいただくお子様は無料です。

小ホール

はじめまして! accie(アッチェ)です。子育て中のママ&パパ、子ども達へのコンサートをしています。絵本に合わせて歌ったり踊ったり!たくさんきらきらミュージックでみなさんをお待ちしています。

演出:櫻井幸絵(劇団千年王国)、ソプラノ:柳生たみ、ピアノ:日小田直美、フルート:大島さゆり

accie(アッチェ)

TEL.090-3776-4556

子どもと大人のオペラガラコンサート

10月16日(日)
14:00/17:00開演 各30分前開場

全席自由
一般 2,500円 高校生以下 1,000円
親子券 3,000円(大人1+子ども1)
身障者 500円(4席まで) 支持会員 2,200円

※Kitaraクラブ割引5%(教文プレイガイドのみ)
※教文ホールメイト5%割引(教文プレイガイドのみ)

小ホール

子どもがいるオペラの風景

オペラは「大人」だけのものではありません。有名なオペラにも「子ども」が登場し、その無垢な歌声で大人たちが見逃している真実を告げてくれます。オペラ歌手の豊かな声が、子どもの可愛らしい声と対話したら...? 子どもと大人がともに創り上げるオペラの世界をお楽しみください。

NPO法人 札幌室内歌劇場 TEL.011-211-0471

ママと子どものはじめての音楽会~こんにちは!オペラ~

11月5日(土)
①11:30/②15:00開演 各30分前開場

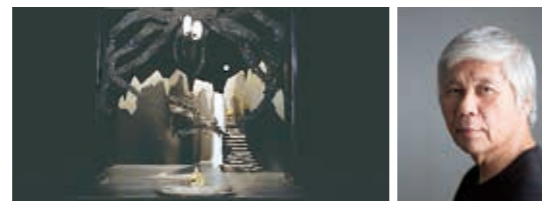
全席自由 500円
※対象目安 ①0才~未就学児 ②小学生以上
※お膝の上でお聴きいただくお子様は無料です。

小ホール

オペラの名曲や、みんなも知っている親しみやすい音楽がいっぱい!聴いて、見て、歌って、踊って、ママもパパもファミリーでオペラの世界にこんにちは!

札幌オペラシンガーズ TEL.011-685-3779

「地域とかかわる」教文セミナーシリーズ③ オペラの舞台技術セミナー~地域の舞台美術を考える~



10月8日(土)・9日(日) 14:00~17:00

一般 1,500円 学生 1,000円 定員30名(電話受付・先着順)
※2日間の料金。一日参加の場合も同額 ※未就学児入場不可 ※学生の方は当日受付にて学生証をご提示ください。

研修室401

講師/堀尾幸男(舞台美術家)
武蔵野美術大学、旧西ドイツのベルリン芸術大学留学で舞台美術を学ぶ。主な作品に「ブッチーニ三部作」、「ルチア」、「さまよえるオランダ人」がある。'08年朝日芸術賞、'09年菊田一夫賞、'12年伊藤薫賞を受賞。

札幌市教育文化会館 事業課 TEL.011-271-5822

PICK UP EVENTS

[教文主催事業ピックアップ]

今年、教文では「地域とかかわる」教文セミナーシリーズとして、シンポジウムやワークショップを行っています。今回第三回目として、舞台美術家の堀尾幸男さんをお招きして「オペラの舞台技術セミナー~地域の舞台美術を考える~」を開催いたします。舞台美術に関わっている方、または興味をもっている方にはおすすめのワークショップです。

「地域とかかわる」教文セミナーシリーズ③ オペラの舞台技術セミナー ~地域の舞台美術を考える~

10月8日[土] 9日[日]
14:00開講(13:30受付 各日17:00終了予定)
場所/研修室401
一般 1,500円 学生 1,000円
(2日間の料金 一日参加の場合も同額)

※学生の方は当日受付にて学生証をご提示ください。
※未就学児の入場はご遠慮ください。

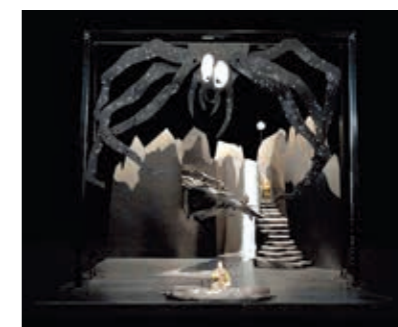
定員/30名(先着順)
お申込み・お問合せ/札幌市教育文化会館 事業課
TEL.011-271-5822

◎堀尾幸男プロフィール

武蔵野美術大学、旧西ドイツのベルリン芸術大学留学で舞台美術を学ぶ。近年の主な作品に、NODA・MAP「THE BEE」「エック」、三谷幸喜演出「決闘・高田馬場」「其礼成心中」、歌舞伎「研辰の討たれ」「ねずみ小僧」「阿弓流為」、スーパー歌舞伎「ワンピース」などがある。中島みゆき「夜会」、東宝ミュージカル「エリザベート」「モーツァルト!」のほか、「ルチア」「トスカ」「マクベス」「さまよえるオランダ人」「魔弾の射手」などオペラの美術も手掛けている。'90年伊藤薫賞、'96年と'99年に読売演劇大賞最優秀スタッフ賞、'00年に紀伊國屋演劇賞個人賞、'04年円空賞、'08年朝日芸術賞、'09年菊田一夫賞、'12年伊藤薫賞を受賞。

オペラの舞台作りには欠かせない舞台美術。写真記録をまじえながらその一端を紹介します!!

教文大使
コネ・クートくん
designed by ロケットデザイン



オペラ「魔弾の射手」より



オペラ「ブッチーニ三部作」より



永瀬 義郎 (1891~1978)
Yoshiro Nagase

大正初期から昭和にかけて活躍した版画家・画家。茨城県出身。独学で版画をはじめ、大正5年日本版画倶楽部(クラブ)を創設、版画技法「ナガセプリント-73」を開発するなど、戦後の日本版画界に大きな影響を与えた。



「ポセイドンの娘」

[設置:1980年(3階廊下)]

美術書としては異例ともいえるベストセラー「版画を作る人」を刊行した永瀬義郎。38歳でフランスに渡り、その後広島、東京と移住を重ねながらも、自分の信ずる「美の世界」を表現するために様々な手法で作品を生みだし、日本の版画界に大きな影響を残しました。中でも独自にシルクスクリンを改良し、深い色彩を出せる技法「ナガセプリント-73」と、晩年の研ぎ澄まされた感性によって名作を生みだすにつづきました。夢の世界を思わせるモチーフ、版画とは思えない色彩の奥行きや立体感、時代を感じることなく、感性の世界を堪能できる一枚です。

歌のお届けコンサート

10月~12月

高齢者施設などへ
歌い手が赴き、
歌を届けます。

出演/
さっぽろオペラ祭参加団体

札幌市教育文化会館
事業課

TEL.011-271-5822

谷口 健太郎から指名→

さっぽろ 演劇人

No.008

よ 藤 谷 真 由 美

でも、やりたいことはまだまだ先に。
でも、やっと見つけられた。

藤谷真由美 プロフィール

Paingsoe(パインソー)所属。俳優／制作。NPO法人コンカリーニョ職員。2002年から北海学園演劇研究会に所属。2012年に現劇団員となる。近年は東京公演にも力を入れ、劇団イナダ組、他団体への客演も多数。



SAPPORO ENGEKIJIN MAYUMI FUJIYA



——大学卒業後も休まず演劇活動を中心にさ
れていますが、演劇の
どんなところに惹かれ
たんでしょう？
「なんでしょうね？私
は流されやすく、声を
かけていただき続ける
間に現在になりました。」

——パインソーに所属したのは？
「もともと、大学卒業後『苗穂
聖ロイヤル歌劇団』という劇団
に所属したんです。でも、徐々
に活動が減っていった。それで
歌劇団にも参加していたメン
バーがパインソーを立ち上げて
いたので、声をかけてもらって
始めました」

——演劇を始めたのは？
「高校でイケメンの先輩に勧
誘されて(笑)。動機が不純だっ
たんですけど、それから高校
大学と続けて。(前回登場の)谷
口健太郎さんは、高校・大学の
演劇部の先輩だったんです。
(谷口さん主催の)ブラズマニア
の舞台にも立たせていただきま
したし、逆に私の所属するユ
ニットのパインソーにも出演し
ていただきました」

東京・下北沢演劇祭の公演で
好評を得、今度はNPO法人コ
ンカリーニョでプロデューサー
としてもデビューする藤谷真
由美さん。演劇にまつわるこれ
までと、これからについてお話
をうかがいました。

芝居って、作る過程は辛いこと
が多いですし、自分の演技に満
足した！っていう舞台もそうそ
うないです。一時期は、今日
辞めよう、明日辞めようと思
っていました。でも、何も成
しえずに終わっているのかとい
う気持ちはずっとあって。だか
ら今は、演劇人生の中で初めて
『やりたいから芝居をやっている
時期なんです』

——そう思うようになった
きっかけとは？

「2年前からパインソーは東
京公演を始めました。その公演
で手ごたえを感じたんです。札
幌の演劇ってちゃんと面白いん
だ！ということ、東京の劇団
の皆さんの感想や、何より客席
の反応で実感できて。役者とし
ての自分自身も、初めて舞台上に
立つ充実感を得られたんです。
そこから、まだまだやれる、やり
たいことが見えた気がしました
ね。プロデューサーの仕事もその
ひとつで、役者の片手間じゃな
く専念できることに面白さを
感じています」

——これからの活動は？

「パインソーで、役者として
頑張っていきたいです。すごく
個性的な仲間が集まっています、
関わってくれる人もいい人達で
この人達とだったら、もつと先
に進めるって思います。札幌で
しか観れない芝居を、わざわざ
道外から見に来てくれるような
そんな舞台を作りたいです」

◎次回出演情報 | 劇団イナダ組「誰そ彼時(たそかれどき)〜こぼれ落ちたわたしと。ただ、微笑むあなたと〜」
○日程：2016年10月13日(木)～15日(土) ○場所：生活支援型文化施設コンカリーニョ

[撮影場所] 生活支援型文化施設コンカリーニョ